

救急応需困難例削減のための対策とその結果

美原 貫¹⁾ 谷崎 義生¹⁾ 常味 良一²⁾ 中村 浩一³⁾ 美原 盤⁴⁾

- 1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科
- 2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 看護部
- 3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 医事課
- 4) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 院長

[はじめに]当院は病床数 189 床の脳卒中を主とした脳・神経疾患専門病院で、救急搬送受け入れ件数は年間 1000 件～1100 件台を推移、応需困難例は年間 150 件前後であった。応需困難例削減は病院運営上の課題であった。

[対策]副院長をトップとして救急委員会を再構築し、それまで行われていた事例検討、救急隊との連携、救急インセンティブ制度に加え、救急原則受け入れの方針の周知徹底、当直日誌内容の改定、応需困難例に対する個別検討、病床状況の各部署での共有などの対策を実践した。

[結果]対策実施前平成 30 年 4 月から平成 30 年 9 月の救急搬入件数は 512 件、応需困難例は 61 例、月平均 10.1 件であり、介入開始後平成 30 年 10 月から平成 31 年 3 月までの救急搬入件数は 599 件、応需困難例は 52 件と月平均 8.7 件に削減された。

[結語]救急医療充実には、職員一丸となり救急患者受け入れの意識を高めることが重要である。